

港区コミュニティバス「ちいばす」の運行状況について

ちいばすは、平成16年10月に運行を開始した既存2路線（田町、赤坂ルート）と平成22年3月に導入した新規5路線（芝、麻布東、麻布西、青山、高輪、芝浦港南ルート）の合計7路線（8ルート）で運行しており、区は運行事業者に対し、運行経費補助金や車両購入補助金を交付しています。

ちいばすは、区民の日常の交通手段として定着していることから、安定的な運行を維持するため、引き続き、収支率の改善に向けた取組及び補助金の交付を行ってまいります。

1 運行状況

(1) 利用者数

令和3年度の7路線（8ルート）合計の利用者数は2,942,248人で、令和2年度と比較して、325,287人増加しました。

このうち新規5路線の利用者数は2,081,745人で、令和2年度と比較して268,547人増加しました。

(単位：人)

ルート	令和3年度	令和2年度	令和元年度
田町	690,726	608,652	933,401
赤坂	169,777	195,111	293,738
既存2路線 計	860,503 (56,740)	803,763 (▲423,376)	1,227,139 -
芝	207,035	175,316	300,907
麻布東	72,283	89,430	141,266
麻布西	272,862	234,388	336,538
青山	400,409	340,724	535,210
高輪	591,632	520,232	766,030
芝浦港南	537,524	453,108	641,632
新規5路線 計	2,081,745 (268,547)	1,813,198 (▲908,385)	2,721,583 -
全路線 合計	2,942,248 (325,287)	2,616,961 (▲1,331,761)	3,948,722 -

※ () 内は前年度からの増減数

(2) 新規5路線の収支率

令和3年度の新規5路線の平均収支率は41.8%で、令和2年度と比較すると、4.3ポイント増加しました。

また、収入は、利用者数の回復や広告収入の増加により、約2,600万円(14.9%)増加しました。一方、燃料費の高騰や人件費の増加により、支出は約1,500万円(3.2%)増加しました。

(単位：千円)

	収入			支出	収支	補助金	収支率※
	運行収入	広告収入等	計				
令和元年度	250,748	16,322	267,070	460,601	▲ 193,531	193,531	58.0%
令和2年度	166,183	9,841	176,024	468,944	▲ 292,920	292,920	37.5%
令和3年度	190,627	11,572	202,199	484,032	▲ 281,833	281,833	41.8%

※ 収支率 (%)：収入÷支出

(3) ルート別の収支率

令和2年度と比較すると、利用者数の回復に伴う収入増により、各ルートの収支率は回復傾向にあります。

路線・ルート	新規5路線						既存2路線	
	芝	麻布東	麻布西	青山	高輪	芝浦港南	田町	赤坂
令和元年度	28.4%	22.5%	48.8%	62.6%	97.9%	65.6%	92.8%	43.8%
令和2年度	18.4%	14.2%	38.5%	40.1%	60.5%	49.9%	66.8%	35.0%
令和3年度	22.7%	18.5%	39.1%	41.7%	66.5%	56.1%	78.1%	38.9%

2 令和3年度の取組

令和3年4月には、麻布東ルートと芝浦港南ルートの経路変更及びダイヤ改正の実施、赤坂ルートのダイヤ改正、田町ルート車庫発便の増便を実施しました。

令和3年7月には、リアルタイムでバスの運行状況や混雑状況等が把握できるバスロケーションシステムを導入し、「ちいばすナビ」アプリの配信を開始しました。

また、バス待ち環境改善のため、2箇所の停留所にベンチを設置しました。

さらに、ちいばすの全車両にプラズマクラスターイオン発生機を設置し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況下においても、安心してちいばすを利用できるように車内の換気や消毒・抗菌等の徹底に努めました。営業所においても、運転士間の感染拡大防止を徹底することで、急速な感染拡大が進む中でも運行体制を確保し、通常の運行本数を維持しました。

3 令和4年度の取組

令和4年4月には、麻布東ルートのダイヤ改正と芝浦港南ルートの経路変更及びダイヤ改正を実施しました。

令和4年11月には、田町ルートと芝ルートの一部ダイヤ改正やタブレット型画面を活用したスマートバス停の実証実験を行いました。また、バス待ち環境改善のため、広告付上屋の設置等、停留所の環境整備を順次進めています。

今後も運行事業者とともに、バスのラッピング広告等による収入確保に向けた取組や経費削減に努めてまいります。

ちいばすのスマートバス停の実証実験について

1 設置目的

バス停のDXを進めるため、時刻表や運休などの情報をデジタルで表示する「スマートバス停」の機能や利便性を検証しました。

2 設置場所

163 みなとパーク芝浦（芝ルート、芝浦港南ルート）

3 設置期間

令和4年10月31日から令和5年2月末まで

4 設置費用

バス停設置及び管理にかかる費用は、スマートバス停を製造する事業者の負担です。

5 実証実験の結果

- 利用者アンケートの結果、回答者の約8割の方が、見やすさ等について満足と回答した一方、リアルタイムで運行状況が知りたいという意見も寄せられました。
- 運行事業者は、管理システムにより遠隔で掲示内容を変更できましたが、変更内容が反映されるまでに一定時間を要することから、性能上の課題がありました。

6 その他

- 電源は電池式のため配線の必要はありません。（電池の耐用年数は約2年）
- 今回の実証実験の結果を踏まえ、今後、仕様及び設置箇所の検討を進めていきます。
- 管理システムによって変更された内容は、携帯回線を使って盤面に反映されます。



設置状況